**山根　勢五（やまね・せいご）**

**１、プロフィール**

歌人。暁星短歌会・陸奥短歌協会・あのなっすそさえての結成に参加。昭和41年１月に宮中歌会始に入選。平成５年７月に「生や畢んぬ」30首で第36回短歌研究新人賞候補入選。

＜生没＞

1925（大正14）年９月30日～2015（平成27）年９月10日

＜代表作＞

第36回短歌研究新人賞候補入選作品の「生や畢んぬ」30首。平成５年７月に発表。

＜青森との関わり＞

八戸市に生まれ、八戸市に住み続けた。福士幸次郎の地方主義に共鳴して、村次郎と共に歩んだ。

**２、作家解説**

大正14（1925）年９月30日、八戸市港町に生まれる。昭和20(1945)年３月に旧制青森県立八戸商業学校を卒業。昭和20年４月から昭和24年８月まで八戸市立工業学校教論で国語科を担当。昭和27年７月から昭和63年４月まで八戸鱗光冷蔵株式会社に勤務する（退職時は常務取締役）。

昭和17年５月に暁星短歌会結成に参加。昭和21年２月に陸奥短歌協会結成に参加して事務局長。昭和22年３月に村次郎主唱の「あのなっす・そさえて」に参加。昭和41年１月に宮中歌会始に入選。同年11月に第１回八戸文化奨励賞を受賞。昭和51年１月から52年１月まで「フジ画廊覚え書」を「うみねこ」に連載。昭和54年４月に『昭和萬葉集』第７巻（講談社）に短歌作品が収録される。昭和58年１月、省エネルギー論文が科学技術庁長官賞を受賞。昭和59年11月に八戸市文化賞を受賞。昭和60年４月に村次郎詩集復刻版を刊行して代表を務める。昭和61年11月から平成３（1991）年１月まで「みなとはちのへ物語」を「うみねこ」に連載。昭和63年９月に滝尻善英著作の『八戸御城下三十三番札所巡り』（デーリー東北新聞社）に札所毎に現代新御詠歌を作詠。平成元年４月に八戸市立東中学校校歌を作詞。平成２年11月に八戸文化功労賞を受賞。平成５年７月に「生や畢んぬ」30首で第36回短歌研究新人賞候補に入選。平成７年10月に八戸近代史研究会の一員として『きたおうう人物伝』（デーリー東北新聞社）を出版。平成10年６月から13年３月まで「村次郎ノート」を「うみねこ」に連載。

清遠短歌会代表、八戸美術連盟顧問、八戸近代史研究会同人、ウォーキングクラブＭＴＣ21顧問を務めた。

**３、資料紹介**

〇「生や畢んぬ」30首

1993（平成５）年７月

昭和61年の先天性僧帽弁閉鎖不全症での心臓手術体験をモチーフに「生や畢んぬ」という題で30首にまとめる。平成５年７月の短歌研究新人賞候補作品。意識の暗黒会をリアルに詠う。「紡錘形にきらめき時間が遠去かる／されば一期の生や／畢んぬ」等の作品。